

最新の経済予測のお知らせ

本資料（「世界の中の日本」）は、最新の情報を基に作成しておりますが、直近で発表された ADP 雇用統計や、米国 ISM 製造業・非製造業指数などの情報により、米国の成長率や長期金利に関する予測計数とともに、ドル円レートについての予測を改訂いたしましたので、以下にご案内申し上げます。

<1 ページ 第1段落 第2文>

改訂前：14 年を特徴づけるのは、先進国景気の復調であり、特に米国経済の成長率は 2.8%と、13 年の 1.8%から大きく上向くと予想する。

改訂後：14 年を特徴づけるのは、先進国景気の復調であり、特に米国経済の成長率は 3.1%と、13 年の 1.9%から大きく上向くと予想する。

※1 ページの表の米国成長率についても同様に改訂。

<3 ページ 第1段落 第2文>

改訂前：今後、これに伴って米国の長期金利が徐々に上昇していく可能性が高く、14 年末には、10 年物の米国財務省証券利回りが 3.15%まで上昇すると見込む。

改訂後：今後、これに伴って米国の長期金利が徐々に上昇していく可能性が高く、14 年末には、10 年物の米国財務省証券利回りが 3.30%まで上昇すると見込む。

※3 ページの図における米国財務省証券利回り（10 年物）についても同様に改訂。

<10 ページ 第3段落 第2文>

改訂前：野村では、14 年末には、1 米ドル=110 円、15 年末には、1 米ドル=116 円にまで円安が進むと予想している。

改訂後：野村では、14 年末には、1 米ドル=114 円、15 年末には、1 米ドル=118 円にまで円安が進むと予想している。